

編修趣意書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学校	教科	種目	学年
106-84	高等学校	理数	理数探究基礎	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		

1. 編修の基本方針

現代の日本が直面する、生産年齢の人口減少、グローバル化の進展、技術革新の発展など社会構造が大きく変化しつつある時代を生き抜く高校生には、様々な変化に向き合い、自ら考え、他者と協働して課題を解決できるようになる力が求められている。また、若い世代が、大学に進学して自然科学の研究に取り組む場面はもとより、社会に出た際、課題に直面した場面でも、計画を立て、他者とコミュニケーションしながら課題解決する力は重要になりつつある。特に知的好奇心をもって自ら課題を発見し、解決しながら様々な事柄に挑戦する態度を育成することは、高等学校の教育が担うべき重要な役割と考えられる。さらに、課題解決の際、数学・理科の知識を総合的に活用しながら、科学的・主体的に活動する能力を育成することも合わせて重要である。

このような状況を踏まえ、以下の3点を編修の基本方針とした。

(1) 自ら学ぶ意欲を高め、探究の意義を学び、探究への関心を広げる。

小・中学校で養った、問題を解決する力、探究する力をベースに、高校でさらに探究活動を学んでいくよう、また、高校に進学して間もない、探究的な活動の経験が少ない生徒にも、無理なく学習を進めて、関心を広げることができるように配慮した。そして、生徒が主体的に学びやすく、教師が教えやすい教科書を目指した。

(2) 探究活動を行うための基礎的な知識・技能を確実に定着させ、思考力・判断力・表現力を育む。

学習指導要領「理数編」に示されている事項を丁寧に扱い、その目標を達成できるようにした。また、数理的な考え方の有用性を実感させるよう配慮した。実習的活動も適宜取り入れ、探究の流れ・進め方を理解するとともに、思考力・判断力・表現力を育むこともねらった。

(3) 研究倫理についての理解と、探究に取り組む姿勢の涵養を図る。

探究を進めていく中で、あるいは、探究の成果を発表する際に、研究に従事する者として求められる態度・倫理的な考え方を育むことをねらった。

2. 対照表

教育基本法第2条	特に意を用いた点や特色	箇 所
第1号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> ○幅広い知識と教養を身に付けるという観点から、教科の枠を超えて多面的に思考することの大切さを説いた。 ○科学的な見方・考え方を働かせる重要性を説いた。 ○真理を求める態度を養うという観点から、ガリレイからニュートンに研究が発展的に継承された話や天動説から地動説に真理が導かれた話を扱った。 ○豊かな情操と道徳心を培うという観点から、先人の知的財産を尊重する態度、および研究倫理について取り上げた。 	p.20, 23, 24, 28 全体, p.22 p.13, 115 p.62-67
第2号 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> ○自主及び自立の精神を養うという観点から、目的意識をもって学習に臨めるよう、探究の流れの一般的な全体像をはじめに示し、それぞれがどこで詳しく述べられるかを提示した。目的意識をもって学習に臨めるよう、第1章の各節の冒頭に、その節で何を学ぶかを提示した。 ○科学や技術の発展が日常生活にどのように活用されてきたかを紹介した。 	p.14-15 終章(p.114-115), 他
第3号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> ○男女の役割を固定せず、学習を進めいくことができるよう配慮した。 ○フォントは視認性と可読性の高いUDフォントを採用した。デザインや配色は、色覚の個人差を問わず、より多くの人に必要な情報が伝わるよう心がけた。 ○社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う観点から、友人を作る探究事例を紹介した。 	全体 全体 p.92-93
第4号 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> ○現代の人間生活の課題解決への取り組みの例として、SDGsを取り上げた。 ○再生可能エネルギーの利用効率を上げる探究事例として、風車の羽根の改良研究を取り上げた。 ○自然環境に関する探究事例を取り上げた。 	p.45 p.78-81 p.82-85

<p>第5号 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。</p>	<p>○伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するという観点から、我が国のノーベル賞受賞者を取り上げた。 ○科学と技術の発展により、今では月を周回する人工衛星から地球を見る技術も我が国が持っていることを紹介した。 ○他国を尊重するという観点から、海外の科学者を取り上げた。 ○他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うという観点から、外国語を使い、考え方や宗教の違いを超えて交流し、互いを尊重してコミュニケーションすることを取り上げた。</p>	p.8-9, 114-115 p.115 p.12, 17, 23, 26, 28, 97, 114, 115 p.115
---	---	--

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

(判型)

○現在の高等学校で発行されている報告書や論文集は判型がA4判をとるものが多く、探究ワークシートなどもA4判が多いことを受け、本書の判型はA4正寸とした。本書にワークシート例を原寸大のA4判で掲載した(p. 70-76)。

(全般)

○文章は平易ながらも丁寧に書き、結論が明解になるように配慮した。

(内容の配列と系統化)

○「理数探究基礎」の授業は、座学の連続ではなく、実際にコンパクトな課題例（観察や実験）を行なながら、必要なタイミングで教科書を参照する使い方を想定するのが自然だと考えた。このため、本書は、「課題を設定するとき」や「研究倫理を学ぶとき」のような場面場面で適切なページを使えるよう、内容を系統化して配列した（特に第1章）。

○巻頭の口絵にはラファエロによって描かれた「アテナイの学堂」を掲載し、科学に普遍性と多様性の二面性があることを述べ、理数探究、ひいては科学に対する興味・関心を高めることをねらった。

○「序章」では、緒言として、第一線の研究者から探究を学ぶ高校生に向けたメッセージを掲げ、探究することの意義を伝え、社会を良い方向へ変革する意欲を喚起することをねらった。

○全体を4つの章（第1～3章、終章）に分け、探究の進め方の基本事項を第1章に、先輩たちが行った先行研究事例を第2章に、探究の実習テーマ例を第3章に掲載した。また、「終章」では、「理数探究基礎」で学んだことを受け、後に「理数探究」または「総合的な探究の時間」、その他、各科目の課題研究・探究活動に進んでいく生徒に向けて、振り返りのまとめを扱った。

○第1章は、第1節から第5節の5つの節で構成した。第1節は概論・総論的な内容で、全体構成のアウトラインを示した。それぞれの詳論は第2節以降で学ぶ構成である。第1章では、適宜「やってみよう」「考えよう」などの活動を盛り込んだ。これにより、観察・実験などの活動を通して学習

内容を理解し、科学的な見方・考え方を働きかせ、興味・関心を高めることをねらいとしている。

○第2章は各生徒が興味のある分野の先行研究事例を読めるよう、5つの節で構成した。各節でテーマを設定して内容を構成した。それぞれの事例は、課題の設定からどのように探究が進んでいったかの流れが読み取れるように丁寧に扱った。ここで紹介したいいくつかの探究は、優れた研究として表彰されたもので高校の特に低学年の生徒には高度なものも含まれるが、実例から探究の流れや取り組み方を学ぶことをねらった。なお、5つのテーマは、学習指導要領「理数編」の4. 内容の取扱いの(1)ア、イ、ウ、エ、オに依った。生徒は、どれか1つの節のみを閲覧してもよいし、複数の節を参照してもよいように、それぞれ独立した内容とした。

○第3章では課題例を挙げた。内容の把握の一助として、課題例を「生物」「化学」「物理」「地学」「数学」「社会」「横断」分野のマーク表示をした。高校生の取り組みやすさを考慮して、一部は既存科目の実験をもとにしたものも扱い、探究活動の全体的な流れを実践して経験が積めるような課題例を精選した。

○本文に関連した話題や参考事項などを適宜「コラム」として取り上げ、生徒の知的好奇心を高めることをねらった。

○巻末資料に『探究で用いる統計学』を設定し、探究の過程において得られたデータを分析するための数学的な手法をとりあげ、活用できるようにした。

(図表作成およびレイアウト上の留意点)

○すべての読者に必要な情報が伝わるデザインを目指し、カラーバリアフリーに対応したデザイン・配色に配慮した。色覚特性に配慮してデザインするというだけでなく、調和のとれた秩序ある色彩設計とし、伝えたい情報が的確に伝わるように工夫している。

(主体的・対話的な学習場面の充実)

○探究は、適切な課題の設定が重要になる。課題の設定を1人で行う場合ばかりではなく、グループワークにより複数名で課題の設定をすることなども扱い、主体的・対話的な学習の場面を取り入れられるよう配慮した。また、グループワークで行う「やってみよう」「考えよう」も適宜挿入し、対話を通して学びが深まるように配慮した。

(ICTの活用)

○効果的なデジタル教材（動画、WEBサイトなど）にリンクするQRコードを要所に掲載し、生徒の学習意欲を高めたり、学習を広げ、理解をより深めたりすることができるようにした。

編修趣意書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

※受理番号	学校	教科	種目	学年
106-84	高等学校	理数	理数探究基礎	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

本書の構成と各内容の記述にあたっては、次の点に配慮した。

小・中学校の探究的活動、および中学数学・理科の学習内容を礎とした内容構成

- 小・中学校で養った問題を解決する力、探究する力をベースにし、既習の学習内容としては、中学で学んだ理科や数学の知識を前提とし、いたずらに高度な知識を前提とすることがないよう配慮した。
- 「疑問」（「不思議」）や「課題」（「問題」），「課題（問題）解決」など、小・中学校から慣れ親しんできた用語を再定義すると生徒が混乱する恐れがあることに配慮し、生徒が親しんでいる言葉は既習として扱った(p.6)。

口絵

- 巻頭の口絵にはラファエロによって描かれた「アテナイの学堂」を掲載した。この掲載意図を p.6 に記し、科学に普遍性と多様性の二面性があることを述べ、理数探究、ひいては科学に対する興味・関心を高めることをねらった。

第1章 探究の進め方

第1節 探究へのいざない

- 第1節では、探究の全体像と大きな流れの鳥瞰図を示した。p.8-9 で大隅博士のオートファジーの研究の概要を大まかに示し、探究の意義と探究によって育成される主な力を p.10 で示した。続いて、短時間で簡単に実施できる課題例（迷路を解いて学習曲線を描く）に取り組み、実験を実施して結果を表やグラフにまとめ、グラフから読み取れることから考察を行う流れを体験させるようにした。一般的な探究の進め方のフローを p.14-15 に、探究を進める上での注意点を p.16-17 に掲載した。
- 自然科学の世界では、先人の研究の上に自らの研究が行われる例が多い。高校生が行う探究でも、先人の研究を発展・改良していく態度・姿勢を育むため、歴史上でもこのようことで大きく自然科学の研究が発展したことを例示した。p.12-13 で、ガリレイ（先人）の研究を受けてニュートンの研究が位置されることを示した。コラムとしてニュートンの言葉として有名な「巨人の肩の上に立つ」を紹介した。

第2節 課題の設定

- 自分たちが探究を行うのに、その課題を設定する必要がある。課題を設定するのは多くの高校生にとって難しい事柄である。本書では、まずは、身の回りの疑問に気づくことから始めることを示し、探究に適した課題とはどのようなものかを説いた。また、課題を設定するのに必要な基礎学力についても言及し、知識が不足しているために誤った仮説を立て、誤った結論を導き出してしまうなどの危険性があることについて注意を喚起した(p.24)。
- 課題を探究する際には、科学的・数学的な思考が必要である。p.22 では、これらのことについて解説した。
- 課題を設定する際には、安全面に配慮した課題にしなければならないことや、生命倫理の尊重の必要性など、課題設定の際に忘れてはいけないことについても注意喚起した(p.25)。

第3節 課題の探究

- 第3節では、前節で設定した課題を探究していく知識や技能について解説した。仮説の設定、先行研究の調査、情報収集、および探究計画の立案などについて述べるのに続いて、実際の観察・実験に必要な知識や技能を記した。その探究を進めるのに適した手法があることを述べ(p.32)、いくつかの探究の方法を紹介した(p.34-36)。研究手法の確認のための予備実験についても紹介した(p.32)。
- 研究計画書を作成すること(p.33)、探究を記録すること(p.37)の必要性を説いた。
- 研究で得られたデータを処理する手法について紹介した(p.38-43)。また、データから法則性を見出すことについても言及した(p.44-45)。

第4節 発表と報告書の作成

- 第4節では、探究した結果をまとめ、適切に表現し、発表するための基本的な知識や技能を解説した。発表の種類としてポスター発表や口頭発表があることを示し(p.48)、それについて解説した(p.48-54)。
- 報告書（論文、レポート）を書くための基本的な知識や技能を解説した(p.55-61)。ここでは、研究倫理についての理解を育む内容も扱った(p.61)。また、探究の成果を誰に対しても分かりやすく表現するための構成方法や文章の書き方について詳しく解説した。

第5節 探究に取り組む姿勢

- 先行研究を尊重する態度や適切な引用の仕方、探究を行うにあたって守るべき研究倫理・情報モラルについて解説した。生命倫理や人権への配慮についても触れた(p.66)。

ワークシート

- 探究の記録に用いることができるワークシートの例を原寸大で掲載した(p.70-76)。ワークシートの活用例を p.68-69 に掲載した。

第2章 探究の事例

- 第2章では、実際に高校生たちが取り組んだ探究の事例を紹介した。友人たちとのコミュニケーションや教師からのアドバイスなどを受けながらどのような過程を経て探究が行われたかを実例から学べるように工夫した。この章は、全部の節を一律に授業で学ぶことは想定していない。生徒が興味のある分野のものを選択的に参照するなど、生徒の主体性を尊重し、それぞれの判断で選択的に取り扱われることを想定した。

- 「理数探究基礎」の授業（座学場面）で、第1章第1節で探究の大まかな流れを説明する場合、具体的な事例としてp.8-9のオートファジーの研究の流れを示すことも可能であるが、ノーベル賞級の研究であるため、高校生に身近な例として、この第2章の例（高校生の探究事例）を用いることも可能である。同じく、第1章第2節の課題の設定についての授業を行う場合に、高校生が行った課題設定の事例を示すのに第2章を参照させるという使い方も想定した。
- 第1節「科学技術に関する事例」は、再生可能エネルギーのひとつ、風力を利用した発電効率を上げるための探究である(p.78-81)。
- 第2節「自然環境に関する事例」は、自分たちが住む地域の川の水質の調査の探究である(p.82-85)。これは、水質改善の方法の研究につながる探究である。
- 第3節「自然事象や社会事象に関する事例」では、中学校の理科で学んだ慣性の法則の実験のひとつを題材に、高校生らしい定量的な探究に昇華した事例を紹介した(p.86-89)。微分方程式を考えるなど、高校生にとって難しいモデル化の部分は教師の支援が必要であったが、科学研究のコンクール全国大会で発表することができた事例である。また、幸福感の定量的な測定をするための質問紙の作成を行った探究事例(p.90-91)、フェルミ推定の題材を扱った探究事例(p.92-93)を掲載した。
- 第4節では、数学的事象に関する事例を紹介した(p.94-97)。
- 第5節では、鹿児島の高校生が地元の活火山（桜島）を研究対象とした探究事例を紹介した。これは横断的・学際的領域に関する事例であると同時に、防災・減災の研究にもつながる探究事例である。

第3章 探究の課題例

- 第3章では課題例を挙げた。内容の把握の一助として、課題例を「生物」「化学」「物理」「地学」「数学」「社会」「横断」分野のマーク表示した。高校生の取り組みやすさを考慮して、一部は既存科目の実験をもとにしたものも扱い、探究活動の全体的な流れを実践して経験が積めるような課題例を精選した。

終章 能動的に学び、世界へ羽ばたこう

- 終章では、「理数探究基礎」で学んだ生徒たちが、この後に「理数探究」または「総合的な探究の時間」、その他、各科目的課題研究・探究活動に進んでいくのに、今後の探究活動に必要な力や態度、考え方を示した。理数探究基礎で学んだ「自ら学び、未知の課題に対して様々な知識を総動員して探究していく姿勢」を礎に、AINシュタインや朝永振一郎といった先人達の言葉を紹介し、さらに社会をよりよくし、世界へ羽ばたいていく態度や姿勢の重要性を説いた。

巻末資料

- 理数探究基礎では観察・実験を行う機会が多いので、安全に観察・実験を進めることができるように「観察・実験に関する安全上の注意」を掲載した。
- 観察・実験、その他探究活動で、物理量・数値などを適切に扱うことができるよう、「大きな量や小さな量の表し方」「累乗と指数」「測定値と誤差」「有効数字」「有効数字の桁数と測定の精度」「測定値の計算」を掲載した。また、「三角関数」、「対数関数・常用対数」を紹介した。
- 観察・実験、その他アンケート活動などで収集した結果の処理で、統計的な処理を行うことが想定されるので、「探究で用いる統計学」を掲載した。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	※配当時数
(序章) 緒言	基礎 ア(ア) 探究の意義についての理解	p. 4-5	
第1章 探究の進め方	第1節 探究へのいざない	基礎 ア(ア) 探究の意義についての理解 基礎 ア(イ) 探究の過程についての理解 基礎 ア(エ) 観察、実験、調査等についての基本的な技能 基礎 ア(オ) 事象を分析するための基本的な技能 基礎 ア(カ) 探究した結果をまとめ、発表するための基本的な技能 基礎 イ(ア) 課題を設定するための基礎的な力 基礎 イ(イ) 数学的な手法や科学的な手法などを用いて、探究の過程を遂行する力	p. 8-10 p. 14-15 p. 11, 12-13, 15 p. 15 p. 15 p. 14 p. 12-13
	第2節 課題の設定	基礎 イ(ア) 課題を設定するための基礎的な力 基礎 イ(イ) 数学的な手法や科学的な手法などを用いて、探究の過程を遂行する力 基礎 ア(エ) 観察、実験、調査などについての基本的な技能	p. 18-21, 24-25 p. 22 p. 20
	第3節 課題の探究	基礎 ア(イ) 探究の過程についての理解 基礎 ア(エ) 観察、実験、調査などについての基本的な技能 基礎 ア(オ) 事象を分析するための基本的な技能 基礎 ア(カ) 探究した結果をまとめ、発表するための基本的な技能 基礎 イ(ア) 課題を設定するための基礎的な力 基礎 イ(イ) 数学的な手法や科学的な手法などを用いて、探究する過程を遂行する力	p. 26 p. 27-45 p. 38-45 p. 37, 42-45 p. 45 p. 27, 34-35, 38-44
	第4節 発表と報告書の作成	基礎 ア(ウ) 研究倫理についての理解 基礎 ア(カ) 探究した結果をまとめ、発表するための基本的な技能 基礎 イ(ウ) 探究した結果をまとめ、適切に表現する力	p. 61 p. 46-61 p. 46-61
	第5節 探究に取り組む姿勢	基礎 ア(ウ) 研究倫理についての理解	p. 62-67

	ワークシート	基礎 ア(イ)(エ)(オ)(カ)	p. 68-76	
第2章 探究の事例	第1節 科学技術に関する事例	4. 内容の取扱い（1） エ 科学技術に関すること ア 自然事象や社会事象に関すること	p. 78-81	
	第2節 自然環境に関する事例	4. 内容の取扱い（1） ウ 自然環境に関すること	p. 82-85	
	第3節 自然事象や社会事象に関する事例	4. 内容の取扱い（1） ア 自然事象や社会事象に関すること	p. 86-93	
	第4節 数学的事象に関する事例	4. 内容の取扱い（1） オ 数学的事象に関すること	p. 94-97	
	第5節 先端科学や学際的領域に関する事例	4. 内容の取扱い（1） イ 先端科学や学際的領域に関すること ウ 自然環境に関すること	p. 98-102	
第3章 探究の課題例		4. 内容の取扱い（1）, （2）	p. 103-113	
終章 能動的に学び、世界へ羽ばたこう		基礎 ア(ア) 探究の意義についての理解	p. 114-115	
巻末資料	資料1 観察・実験に関する安全上の注意	基礎 ア(エ) 観察, 実験, 調査などについての基本的な技能	p. 116	
	資料2 探究で用いる数学の基礎知識	基礎 ア(エ) 観察, 実験, 調査などについての基本的な技能 基礎 イ(イ) 数学的な手法や科学的な手法などを用いて、探究する過程を遂行する力	p. 117-121	
	資料3 探究で用いる統計学	基礎 イ(イ) 数学的な手法や科学的な手法などを用いて、探究する過程を遂行する力 基礎 ア(オ) 事象を分析するための基本的な技能	p. 122-141	
		計		

③ 常用漢字以外の使用漢字一覧表

学校	教科	種目
高等学校	理数	理数探究基礎

之	繹	鱗	翅	褶	彗	礫
5	16	18	21	27	35	53

寅	彥	漱	椿	楨	瞑	櫛
68	68	68	68	82	90	95

宏	覩
115	116

⑤出典一覧表

申請図書			出典					備考	
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等		
表2, 1	アテナイの学堂	写真						(株)アフロ	70697
6	アテナイの学堂（一部抜粋）	写真						(株)アフロ	70697
9	大隅先生ノーベル賞	写真						(株)アフロ	36859175
10	探究で身に着く力	図	指導要領解説	13, 20-23	文部科学省			出典を参考に自社作成	
11	迷路	図						牧野修司	
12	科学の分類の一例	図	科研費「別表2 系・分野・分科・ 細目表」		日本学術振興会		平成29年 度	科研費「別表2」を参考 に自社作成	https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/03_keikaku/data/h29/h29_koubo_06.pdf
12	ガリレイ	図						(株)アマナイメージズ	TOP7051600009M
12	ニュートン	図						(株)アマナイメージズ	SPL6062512392M
13	イギリスの硬貨	写真						ゲッティイメージズ ジャパン(株)	184091202
17	アレクサンダー・フレミング	写真						(株)アフロ	11433130
18	節ヘッド「木漏れ日」	写真						(株)アフロ	20294947
18	節ヘッド「グループワーク」	写真						川勝和哉	
19	松かさの鱗片・上から	写真						川勝和哉	
19	松かさの鱗片・横から	写真						川勝和哉	
19	クモの糸の構造大	写真						川勝和哉	
19	クモの糸の構造小	写真						川勝和哉	
21	グループワークの一例	写真						川勝和哉	
21	グループワーク生徒	写真						川勝和哉	
21	チョウの羽化	写真						岸本直子	
21	きく8号	写真						JAXA	P-018-13425
23	メンデル	写真						(株)アフロ	10794083
23	ワトソン・クリック・ウィルキンス	写真						(株)アフロ	14515479
24	竜山石	写真						川勝和哉	
26	ベーコン	図						(株)アマナイメージズ	22214001589
28	デカルト	図						(株)アマナイメージズ	amana_22177001393.jpg
30	学校図書館	写真						膳所高等学校	
38	青いバナナ	写真						(株)アフロ	aflo_38765859.jpg
38	熟したバナナ	写真						(株)アフロ	aflo_38765867.jpg
39	正確さと精度	図	Skills in Biology	12	Tracey Greenwood	Biozone		p12を参考に自社作成	

⑤出典一覧表

申請図書			出典					備考	
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等		
40	表2 大阪市における月平均気温の比較 1900年と2015年 単位 (°C)	表	過去の気象データ検索 (気象庁Webサイト)		気象庁			1900年は, http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/view/monthly_s1.php?prec_no=62&block_no=47772&year=1900&month=&day=&view=a2	2015年は, http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/view/monthly_s1.php?prec_no=62&block_no=47772&year=2015&month=&day=&view=a2
40	図15 棒グラフの例 都道府県別農業生産額（上位10位、2017年）	図	農林水産統計		農林水産省 大臣官房統計部		平成29年度	e-Stat 政府統計の総合窓口 (https://www.e-stat.go.jp/) より, https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00500206&tstat=000001015617&cycle=7&year=20170&month=0&tclass1=00001019794&tclass2=000001127636 都道府県別推計統計表 3. 都道府県別農業産出額及び生産農業所得 実額 "e015-29-011.xls"	
40	図16 円グラフの例 日本の農業生産額の内訳(2017年)	図	農林水産統計		農林水産省 大臣官房統計部		平成29年度	e-Stat 政府統計の総合窓口 (https://www.e-stat.go.jp/) より, https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00500206&tstat=000001015617&cycle=7&year=20170&month=0&tclass1=00001019794&tclass2=000001127636 全国推計統計表（累年） 1-1. 年次別農業総産出額及び生産農業所得 実額 "e015-29-001.xls"	
40	図17 折れ線グラフの例	図	過去の気象データ検索 (気象庁Webサイト)		気象庁			1900年は, http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/view/monthly_s1.php?prec_no=62&block_no=47772&year=1900&month=&day=&view=a2	2015年は, http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/view/monthly_s1.php?prec_no=62&block_no=47772&year=2015&month=&day=&view=a2
41	図18 ヒストグラムの例 ススキの生産構造図	図						著者の調べ（実測）による	
41	ミジンコの体長のグラフ（ドットプロット、箱ひげ図）	図	Skills in Biology	52-53	Tracey Greenwood	Biozone		p52-53を参考に自社作成	
41	図21 散布図の例 ミジンコの体長と個体あたりの卵の数	図	Skills in Biology	33	Tracey Greenwood	Biozone		左記資料のp.33の散布図を参考に、いくつかの点を取り出して自社作成	資料のプレビュー版は, https://issuu.com/biozone/docs/skills_in_biology_3rd_edition?e=3794344/5225413
45	カエデ Acer (緑)	写真						(有)コーベット・フォト エージェンシー	nua620564

⑤出典一覧表

申請図書			出典					備考	
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等		
45	カエデ Acer (赤)	写真						(有)コーベット・フォト エージェンシー	nua620565
45	SDGsロゴ	写真						国際連合広報センター	
46	節ヘッド「タブレットをもつ生徒」	写真						(株)アマナイメージズ	11017023932
46	節ヘッド「ポスター発表」	写真						梶山正明	
46	天文対話口絵	図						(株)アフロ	114827970
47	科学コンテスト	写真						(株)アフロ	114956474
47	BZ反応のイメージ	図			読売新聞社		2011年	新聞(2011年11/17付)記事に掲載の図を元に自社作成	
62	節ヘッド「テオティワカン遺跡」	写真						(株)アマナイメージズ	10692001221
62	最古の学術雑誌	写真						(株)アフロ	114830574
67	ミリカン	写真						(株)アフロ	59399798
80	風車の試作機	写真						飯澤功	
82	調査風景	写真						河添純子	
90	幸せな人とそうでない人	写真						(株)アフロ	3007324
97	プリンキピアの挿絵	図						(株)アフロ	82675314
98	火山雷ビデオ観測装置の概要	写真						梶之口仁	
99	火山雷観測システム「ボルカ」を用いた観測の様子	写真						梶之口仁	
100	噴水型噴出	写真						梶之口仁	
100	カラム型噴出	写真						梶之口仁	
101	噴出型別の火山雷発生数	図						梶之口仁	
101	噴出型による火山雷の発生モデル	図						梶之口仁	
102	ナイチンゲール	図						(株)アフロ	81767894
104	オオカナダモ	写真						木村進	
104	ウキクサ類	写真						木村進	
105	タデアイの葉	写真						木村進	
105	藍染した絹布	写真						木村進	
105	みそ	写真						(株)アフロ	36702913
108	露頭の観察	写真						川勝和哉	
108	週間予報の例	図						気象庁	
108	日時計	写真	precision sundial		Albin Hoffmann				http://www.precisionssundials.eu/

⑤出典一覧表

申請図書			出典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
109	2018年7月7日の降水量	写真	世界の雨分布速報		JAXA第一宇宙技術部門			https://sharaku.eorc.jaxa.jp/GSMaP/index_j.htm
109	2019年5月の海水温	写真	JAXAひまわりモニタ P-Tree		JAXA第一宇宙技術部門			https://www.eorc.jaxa.jp/ptree/index_j.html
109	2018年5月大阪城周辺	写真	Copernicus Sentinel data		copernicus.eu			
110	腕の長さの測定	写真					橋本三嗣	
111	地域経済分析システムの一例	図					経済産業省、内閣官房	https://resas.go.jp/
112	手作り霧箱	写真	東京学芸大学放射線教育プロジェクトビデオクリップ		東京学芸大学 HATO放射線教育プロジェクト			https://video.u-gakugei.ac.jp/?PHPSESSID=ouvcvufnhtfcf3ek5vsdcr4i6
112	ハザードマップポータルサイト	図					国土交通省	https://disaportal.gsi.go.jp/
113	昔のカメラ	写真					(株)アフロ	7335816
114	AINシュタイン	写真					ゲッティイメージズジャパン(株)	78970955
115	朝永振一郎色紙	写真					京都市教育委員会	
115	満地球の出	写真					JAXA/NHK	P-044-15208
122	表1 2019年9月の日別最高気温	表	過去の気象データ検索（気象庁Webサイト）		気象庁			https://www.data.jma.go.jp/stats/etrn/view/daily_s1.php?prec_no=62&block_no=47772&year=2019&month=9&day=&view=
123	2017年と2018年の24か月の東京都の月別のクマの出没件数	表	クマに関する各種情報・取組 出没情報		環境省			https://www.env.go.jp/nature/chouju/effort/effort12/effort12.html
128	表6 速さと制動距離、停止距離	表	舗装路面で急ブレーキをかけた場合の停止距離		東名自動車学校			https://www.tomei-ds.co.jp/event/01/index.html
143	迷路	図					牧野修司	
表3	風景写真	写真					(株)アフロ	91846818

上記以外の写真、イラストについては自社制作。

(備考) 4 (1)写真等については、肖像権等の権利処理を必要に応じて行うこと。

(2)著作物の掲載に当たっては、著作権法第33条に基づき、掲載する旨を著作者に通知するとともに、
補償金を著作権者に支払う必要があることに留意すること(別途契約を締結する場合を除く)。

備考4の内容について確認しました。

⑭ウェブサイトのアドレス等の掲載箇所一覧表

申 請 図 書			学 習 上 の 参 考 に 供 す る 情 報			備 考
番号	ページ	種別	参照先	U R L	概要	
1	表1	二次元コード	自社	自社ページU R L	目次	
	6	二次元コード	自社	自社ページU R L	目次	
	6	URL	自社	自社ページU R L	目次	
2	9	二次元コード	東京工業大学	https://www.titech.ac.jp/news/2016/036467.html	折れないコツ (オートファジーーノーベル賞を受賞した大隅栄誉教授の研究とは)	別紙1-1添付
	11	二次元コード	自社	自社ページU R L	迷路の画像とグラフ用紙	
	26	二次元コード	NHK	https://www2.nhk.or.jp/school/movie/clip.cgi?das_id=D0005300498_00000	大陸移動説	
	40	二次元コード	自社	自社ページU R L	データの分析とグラフ	別紙1-2添付
	58	二次元コード	自社	自社ページU R L	報告書とポスターの例	
	69	二次元コード	自社	自社ページU R L	ワークシート	別紙2-2添付

申請図書			学習上の参考に供する情報			備考
番号	ページ	種別	参照先	URL	概要	
3	94	二次元コード	自社	自社ページURL	紙を折る操作の実演	別紙3-1添付
	95	二次元コード	自社	自社ページURL	作画ソフトの利用	別紙3-2添付
4	111	二次元コード	経済産業省、内閣官房	https://resas.go.jp/	RESAS	
	112	二次元コード	国土交通省	https://disaportal.gsi.go.jp/	ハザードマップポータルサイト	
5	114	二次元コード	自社	自社ページURL	AINシュタインの言葉の和訳例	別紙4-1添付
6	122	二次元コード	自社	自社ページURL	統計と表計算ソフトの解説動画	別紙4-2添付
		二次元コード	自社	自社ページURL	度数分布表とヒストグラムのつくり方	別紙5-1添付
		二次元コード	自社	自社ページURL	散布図のつくり方	別紙5-2添付
		二次元コード	自社	自社ページURL	回帰分析 (回帰直線)	別紙6-1添付
		二次元コード	自社	自社ページURL	回帰分析 (回帰曲線)	別紙6-2添付

申請図書			学習上の参考に供する情報			備考
番号	ページ	種別	参照先	URL	概要	
125	二次元コード	自社	自社ページURL		信頼区間の求め方	別紙7-1添付
	二次元コード	自社	自社ページURL		χ^2 検定	別紙7-2添付
	二次元コード	自社	自社ページURL		t 検定	別紙8-1添付
	二次元コード	自社	自社ページURL		「3点シュートの成功本数と勝利数」のデータ	別紙8-2添付
	二次元コード	自社	自社ページURL		正規分布表	別紙9-1添付
	二次元コード	自社	自社ページURL		乱数表	別紙9-2添付
	二次元コード	自社	自社ページURL		正規分布表	別紙9-1添付
	二次元コード	自社	自社ページURL		t 分布表	別紙10-1添付
	二次元コード	自社	自社ページURL		検定の計算方法	別紙10-2添付
143	二次元コード	自社	自社ページURL		迷路の画像とグラフ用紙	別紙1-1添付

理数探究基礎

目次

第1章 探究の進め方

第2章 探究の事例

第3章 探究の課題例

終章 能動的に学び、世界へ羽ばたこう

卷末資料

◀ 保護者の皆様・先生方へ ▶
 ◀ インターネットを使う時の注意 ▶

◀ 推奨環境 ▶
 ◀ 著作権について ▶

第1章 探究の進め方



折れないコツ



迷路の画像とグラフ用紙



大陸移動説



データの分析とグラフ



報告書とポスターの例



ワークシート

第2章 探究の事例



紙を折る操作の実演

P.94



作画ソフトの利用

P.95

第3章 探究の課題例



RESAS

P.111



ハザードマップポータルサイト

P.112

終章 能動的に学び、世界へ羽ばたこう



AINSHUTAINの言葉の和訳例

P.114

巻末資料



統計と表計算ソフト

P.122



「3点シュートの成功本数と勝利数」のデータ

P.125



正規分布表

P.131



乱数表

P.132



正規分布表

P.134



±分布表

P.135



検定の計算方法

P.140



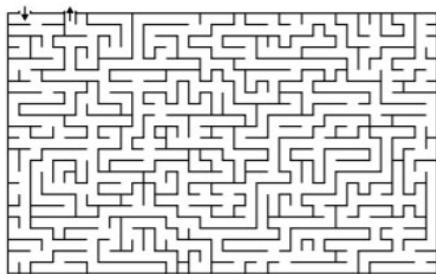
迷路の画像とグラフ用紙

P.143

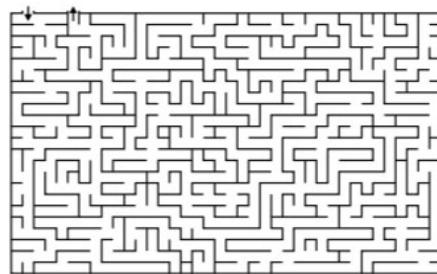
別紙1-1

付録 ヒトの迷路学習 用紙

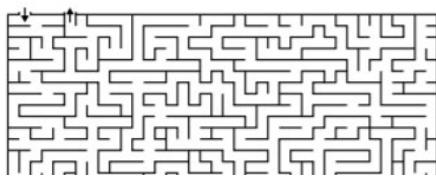
① () 秒



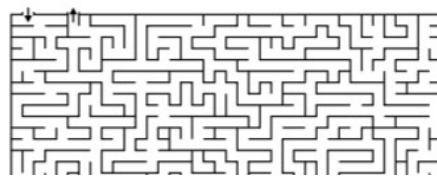
② () 秒



③ () 秒

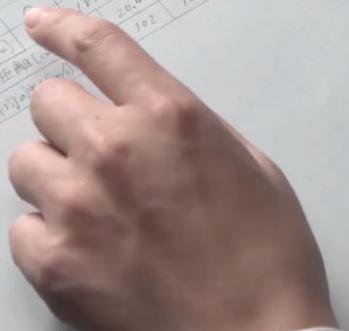
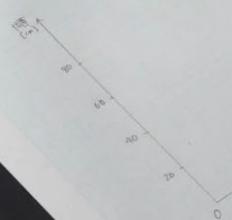


④ () 秒



別紙1-2

板型自動車のスロットル実験	0	0.2	0.4	0.6	0.8
時間(1)	0.195	38.9	58.9	78.9	
時間(2)	-0.4	30.0	20.0		
時間(3)	1.2	100	100		
時間(4)					



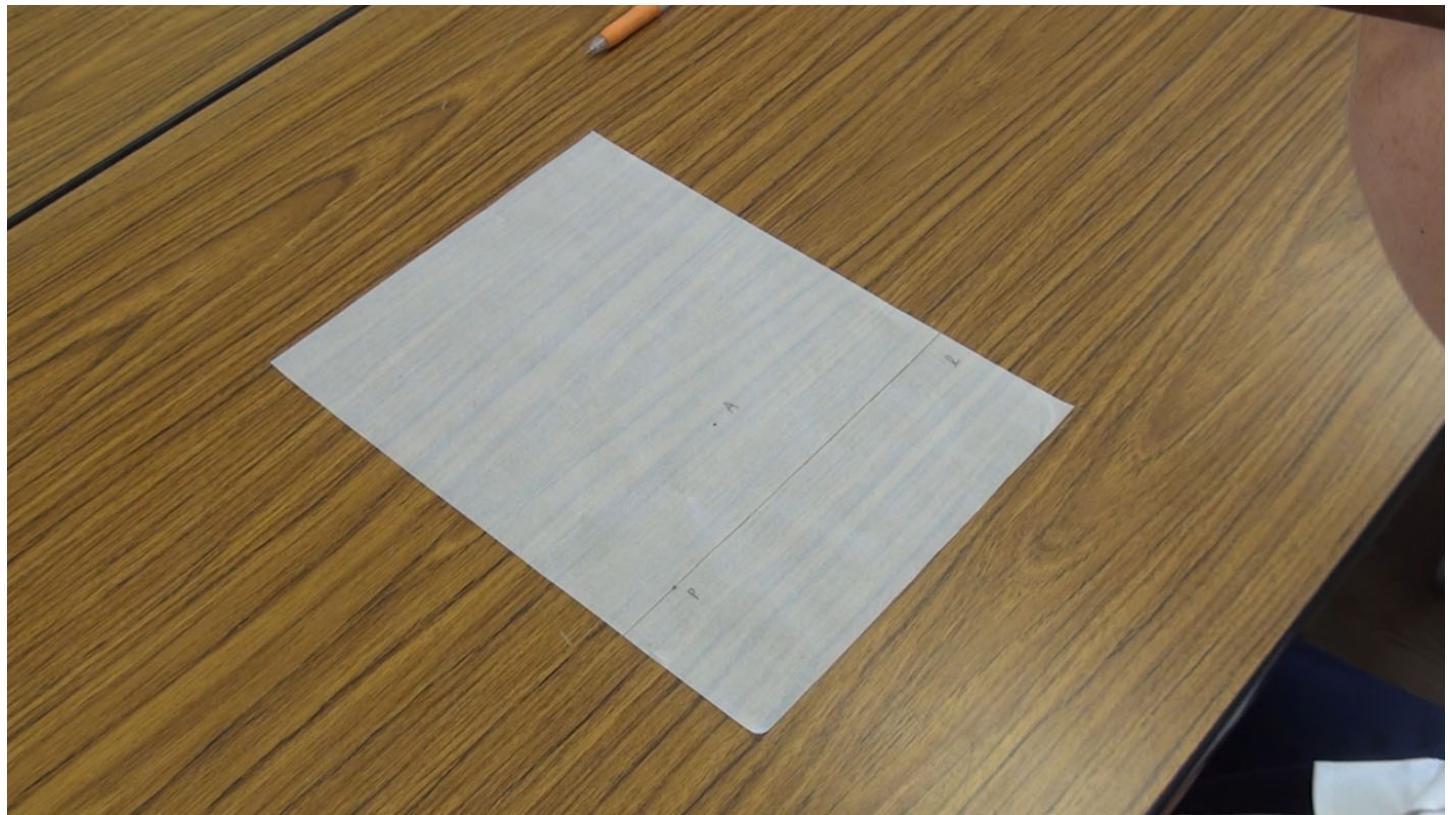
別紙2-1



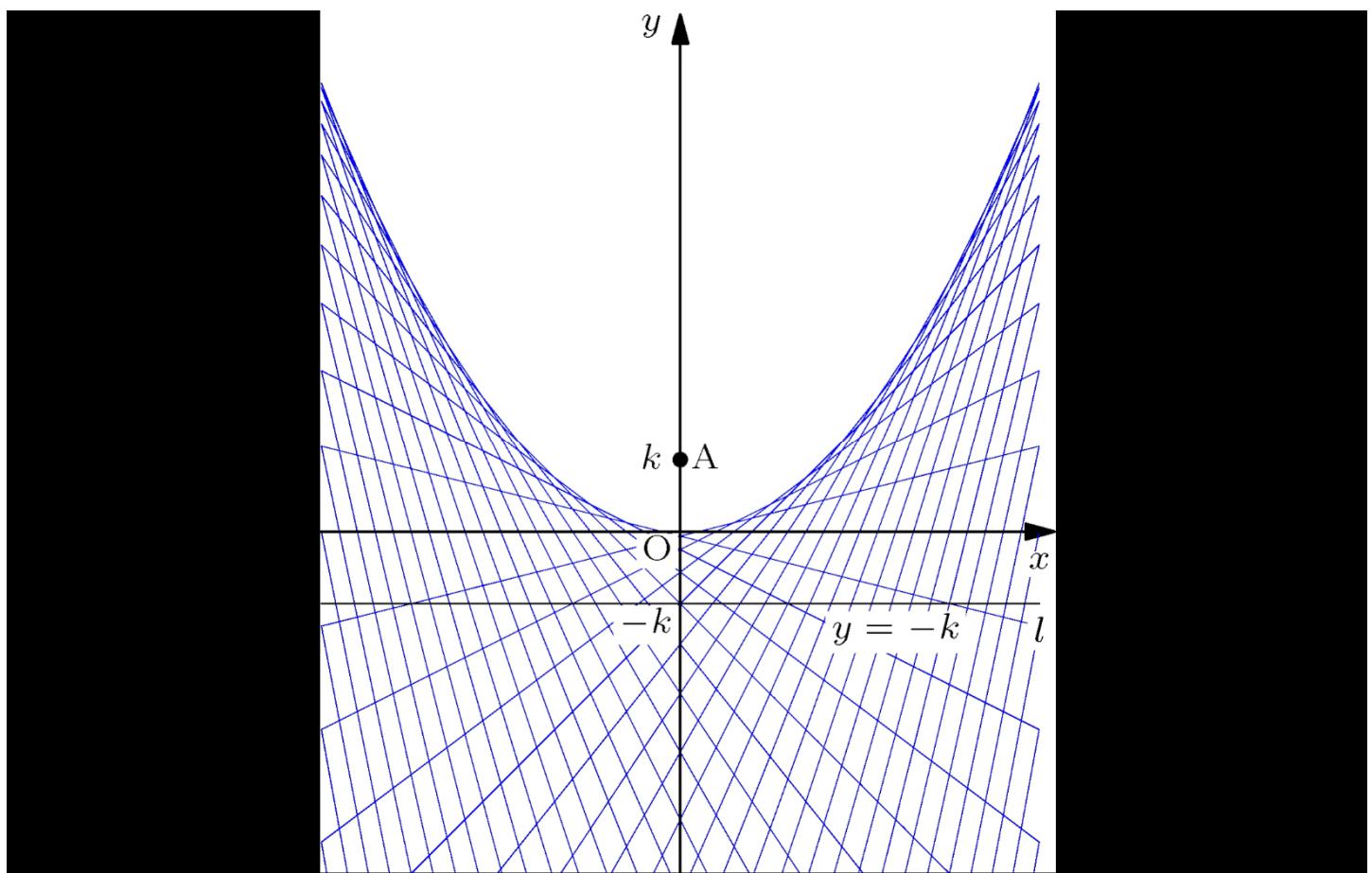
別紙2-2

課題の設定	年 組 番 名前	日付
<h3>● 探究の準備</h3> <p>① 身の回りの疑問や課題を挙げてみよう</p> <p>② キーワード・マッピングやグループワークで発想を広げよう</p>	<p>⇒ p.18</p> <p>⇒ p.18 ~ 19</p> <p>⇒ p.20 ~ 21</p>	

別紙3-1



別紙3-2



別紙4-1

AINSHUTAINの言葉の和訳例

p.114 (終章 能動的に学び、世界へ羽ばたこう) “Imagination is more important than knowledge”では、次のAINSHUTAINの言葉を引用した。ここでは、この中で使われている単語と、和訳の一例を挙げる。

Imagination is more important than knowledge. For knowledge is limited, whereas imagination embraces the entire world, stimulating progress, giving birth to evolution.

単語

imagination	[名] 想像、想像力、創作力
knowledge	[名] 知識
whereas	[接] …であるのに対して
embrace	[動] 包含する、抱擁する
entire	[形] 全体の、完全な
stimulate	[動] 刺激する、興奮させる
progress	[動] 前進、進展、進歩
evolution	[名] 進化

和訳例

想像力は知識よりも大切である。知識には限界があるが、想像力は世界全体を包み込む。想

別紙4-2

統計と表計算ソフトについて



度数分布表とヒストグラムのつくり方



散布図のつくり方



回帰分析(回帰直線)



回帰分析(回帰曲線)



別紙7-1

信頼区間の求め方



別紙7-2

χ^2 検定



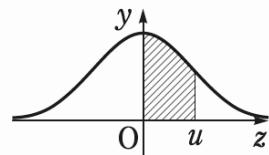
t 検定



	チーム	3点シュートの成功本数 x	勝利数 y
1	GSW	982	67
2	HOU	1181	55
3	DEN	870	40
4	CLE	1067	51
5	WAS	756	49
6	LAC	841	51
7	BOS	985	53
8	POR	852	41
9	PHO	615	24
10	TOR	725	51
11	OKC	692	47
12	BKN	877	20
13	MIN	601	31
14	SAS	753	61
15	IND	709	42

正規分布表

$$u \rightarrow P(0 \leq Z \leq u)$$



<i>u</i>	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
0.0	.0000	.0040	.0080	.0120	.0160	.0199	.0239	.0279	.0319	.0359
0.1	.0398	.0438	.0478	.0517	.0557	.0596	.0636	.0675	.0714	.0753
0.2	.0793	.0832	.0871	.0910	.0948	.0987	.1026	.1064	.1103	.1141
0.3	.1179	.1217	.1255	.1293	.1331	.1368	.1406	.1443	.1480	.1517
0.4	.1554	.1591	.1628	.1664	.1700	.1736	.1772	.1808	.1844	.1879
0.5	.1915	.1950	.1985	.2019	.2054	.2088	.2123	.2157	.2190	.2224
0.6	.2257	.2291	.2324	.2357	.2389	.2422	.2454	.2486	.2517	.2549
0.7	.2580	.2611	.2642	.2673	.2704	.2734	.2764	.2794	.2823	.2852
0.8	.2881	.2910	.2939	.2967	.2995	.3023	.3051	.3078	.3106	.3133
0.9	.3159	.3186	.3212	.3238	.3264	.3289	.3315	.3340	.3365	.3389
1.0	.3413	.3438	.3461	.3485	.3508	.3531	.3554	.3577	.3599	.3621
1.1	.3643	.3665	.3686	.3708	.3729	.3749	.3770	.3790	.3810	.3830
1.2	.3849	.3869	.3888	.3907	.3925	.3944	.3962	.3980	.3997	.4015
1.3	.4032	.4049	.4066	.4082	.4099	.4115	.4131	.4147	.4162	.4177
1.4	.4192	.4207	.4222	.4236	.4251	.4265	.4279	.4292	.4306	.4319
1.5	.4332	.4345	.4357	.4370	.4382	.4394	.4406	.4418	.4429	.4441

乱数表

28 89 65 87 08	13 50 63 04 23	25 47 57 91 13	52 62 24 19 94	91 67 48 57 10
30 29 43 65 42	78 66 28 55 80	47 46 41 90 08	55 98 78 10 70	49 92 05 12 07
95 74 62 60 53	51 57 32 22 27	12 72 72 27 77	44 67 32 23 13	67 95 07 76 30
01 85 54 96 72	66 86 65 64 60	56 59 75 36 75	46 44 33 63 71	54 50 06 44 75
10 91 46 96 86	19 83 52 47 53	65 00 51 93 51	30 80 05 19 29	56 23 27 19 03
05 33 18 08 51	51 78 57 26 17	34 87 96 23 95	89 99 93 39 79	11 28 94 15 52
04 43 13 37 00	79 68 96 26 60	70 39 83 66 56	62 03 55 86 57	77 55 33 62 02
05 85 40 25 24	73 52 93 70 50	48 21 47 74 63	17 27 27 51 26	35 96 29 00 45
84 90 90 65 77	63 99 25 69 02	09 04 03 35 78	19 79 95 07 21	02 84 48 51 97
28 55 53 09 48	86 28 30 02 35	71 30 32 06 47	93 74 21 86 33	49 90 21 69 74
89 83 40 69 80	97 96 47 59 97	56 33 24 87 36	17 18 16 90 46	75 27 28 52 13
73 20 96 05 68	93 41 69 96 07	97 50 81 79 59	42 37 13 81 83	92 42 85 04 31
10 89 07 76 21	40 24 74 36 42	40 33 04 46 24	35 63 02 31 61	34 59 43 36 96
91 50 27 78 37	06 06 16 25 98	17 78 80 36 85	26 41 77 63 37	71 63 94 94 33
03 45 44 66 88	97 81 26 03 89	39 46 67 21 17	98 10 39 33 15	61 63 00 25 92
89 41 58 91 63	65 99 59 97 84	90 14 79 61 55	56 16 88 87 60	32 15 99 67 43
13 43 00 97 26	16 91 21 32 41	60 22 66 72 17	31 85 33 69 07	68 49 20 43 29
71 71 00 51 72	62 03 89 26 32	35 27 99 18 25	78 12 03 09 70	50 93 19 35 56
19 28 15 00 41	92 27 73 40 38	37 11 05 75 16	98 81 99 37 29	92 20 32 39 67
56 38 30 92 30	45 51 94 69 04	00 84 14 36 37	95 66 39 01 09	21 68 40 95 79
39 27 52 89 11	00 81 06 28 48	12 08 05 75 26	03 35 63 05 77	13 81 20 67 58
73 13 28 58 01	05 06 42 24 07	60 60 29 99 93	72 93 78 04 36	25 76 01 54 03
81 60 84 51 57	12 68 46 55 89	60 09 71 87 89	70 81 10 95 91	83 79 68 20 66

t 分 布 表

α 自由度	0.250	0.200	0.150	0.100	0.050	0.025	0.010	0.005	0.0005
1	1.000	1.376	1.963	3.078	6.314	12.706	31.821	63.657	636.619
2	0.816	1.061	1.386	1.886	2.920	4.303	6.965	9.925	31.599
3	0.765	0.978	1.250	1.638	2.353	3.182	4.541	5.841	12.924
4	0.741	0.941	1.190	1.533	2.132	2.776	3.747	4.604	8.610
5	0.727	0.920	1.156	1.476	2.015	2.571	3.365	4.032	6.869
6	0.718	0.906	1.134	1.440	1.943	2.447	3.143	3.707	5.959
7	0.711	0.896	1.119	1.415	1.895	2.365	2.998	3.499	5.408
8	0.706	0.889	1.108	1.397	1.860	2.306	2.896	3.355	5.041
9	0.703	0.883	1.100	1.383	1.833	2.262	2.821	3.250	4.781
10	0.700	0.879	1.093	1.372	1.812	2.228	2.764	3.169	4.587
11	0.697	0.876	1.088	1.363	1.796	2.201	2.718	3.106	4.437
12	0.695	0.873	1.083	1.356	1.782	2.179	2.681	3.055	4.318
13	0.694	0.870	1.079	1.350	1.771	2.160	2.650	3.012	4.221

検定の計算方法

ここでは、p.140、L.36-38 の「② 確率を求める」の計算方法と、棄却域を用いて有意差を判断する方法を補足する。

確率の計算方法

p.140 の②の確率を表計算ソフトを用いて計算するには、以下のようにカイ二乗検定に対応する統計量（ χ^2 値という）を求める。

違う向き、同じ向き、それぞれの観測値と交替性転向反応がない場合の値の差を求めると、それぞれ、

$$63 - 50 = 13, \quad 37 - 50 = -13$$

であるので、 χ^2 値は、

$$\frac{13^2}{50} + \frac{(-13)^2}{50} = 6.78 \quad \dots (i)$$

と求められる。これが、分布の評価に使用する値となる。

表の行数と列数から、

(行数-1) × (列数-1) の値 (これを自由度という)

を求めると、

$$(2-1) \times (2-1) = 1 \quad \dots (ii)$$